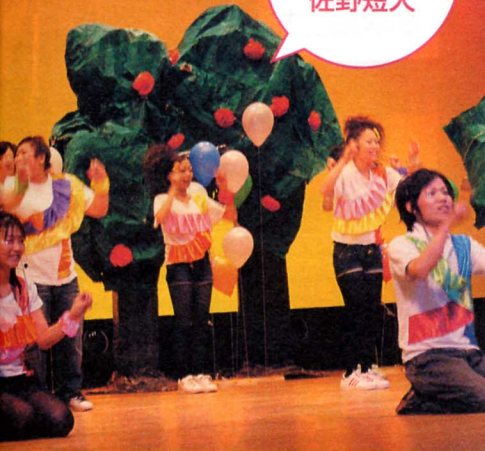


見などを招待して
を開く!!

応援広場」

TOPICS

佐野短大



喜びと楽しさを。リズム体操・創作劇・歌などで

佐野短期大学と佐野市の共催で「第1回さの子育て応援広場」のイベントが2月27日、佐野市浅沼町の市文化会館で開かれた。体を打楽器に見立てたリズムあそびや童話を組み合わせたオペレッタなど同大の児童福祉専攻の学生たちの手作りイベント。市内の公立保育園児や未就園

の街宣言」キャンペーンに協力するために今回初めて学外で開いた。
1、2年生約250人は例年より早い昨年10月ごろから準備を進め、本番に向けての特別を重ねてきた。卒業と同時に保育士や幼稚園教諭をめざす2年生はプログラムに応じてチー



市内の保育園児たちも大喜び

すべてオリジナルのプログラムはテレビで人気の高い体操のかわわぶたいそう、体のリズムあそび「ボディパであそぼう」、童話「あかずきん」と「3匹のこ

ミに食べられそうな赤リボンちゃんには「逃げて!」「危ない!」の応援が会場いっばいに響き渡っていた。佐野短大社会福祉学科長の藤原保利教授は「このような大勢の子どもたちに見に来ていただき、感謝します。すべてが手作りで学生たちが夜遅くまで意見を出し合い、試行錯誤を繰り返したプロセスも大きな財産であり、園児たちのきらきら輝く眼で盛り上がったイベントが完結して、学生たちに力

練習に汗を流す小山高専の女子サッカー同好会

TOPICS

小山高専



小山高専女子サッカー同好会のメンバー

「なでしこジャパン」に代表されるように女子サッカー熱が盛り上がっているが、小山高専工業専門学校でも女子サッカー同好会(部長井上和歌さん・部員14人)が懸命な練習に余念がない。しかし少ない部員と技術がまだまだとあつて、大会出場は先になる。現在はサッカーをミニ化したフットサル大会に活躍の場をシフトして「何とか1点を、食いついて1勝を」と執念を燃やしている。

まずはフットサル大会での活躍を目指す

同校では1年から5年まで全校生徒約1,000人が在学しており、このうち女子生徒は約1割の100人と少ない。サッカー同好会の顧問の物質工学科の飯島道弘講師は中、高、大の学生時代にサッカー部で鍛え、経験は豊か。2002年、スポーツ界で女子サッカーが話題になったのをきっかけに同校でも女子学生の呼びかけで同好会が結成され、同時に飯島講師が顧問となって指導にあたり、現在に至っている。

フットサルはコートやゴール幅が狭く、5人制でルールがゆるやかとあつて女性向きの競技。本来ならフットサル部と名を変えたいところだが、「将来ともサッカー大会に出場する強い希望を持ち続けています」という飯島コーチの願いが込められサッカー同好会の名が存続している。これまでのフットサル大会では1点もとれず、1勝もできないが、部員たちは他人ごとのように明るく練習に励



女子サッカー同好会の熱の込められた練習

レクチャーする顧問の飯島道弘講師



メリハリがある」と井上部長と浅木美奈子副部長はきつぱりとした口調で話していた。また飯島コーチは「練習や合宿など部活を通じてチームワークの大切さや教室での悩み解消、社会人となった時の心構えを習得するなど結構エンジンにしているようです。しかし最近、試合に負ける口惜しさを味わっており、もっと練習試合など試合慣れして1点の重みを会得させたい」と語っていた。